



現在の風景

JR毛呂駅より埼玉医科大学病院を望む 昭和44年ごろ（村田良一さん提供）

昭和44年ごろと現在を比較しても、見える景色はそれほど変わっていないようにも見えます。昭和30年代後半から毛呂山町の開発は進みました。そのなかでもこの風景は、当時の景色を残している貴重な場所であるといえるのではないのでしょうか。

お知らせ

長い間、広報もろやまの裏表紙の顔として続けさせていただいた毛呂山思い出写真館は、掲載可能な写真が不足しているため、今後の掲載継続が難しくなっています。昭和60年代ごろまでの昔の写真が皆さんの家庭にも眠っていませんか？ 写真を貸していただける方は、役場秘書広報課広報広聴係 ☎(295) 2112 内線332までご連絡ください。

徒然歳時記

秋の虫



秋になると、涼しげな虫のこえがあらこちらから聞こえてきます。秋の虫と聞いて、皆さんはどんな虫を思い浮かべますか。「あれ松虫が鳴いている ちんちろちんちろちんちろりん」で始まる童謡『虫のこえ』には、5種類の虫が登場します。松虫、鈴虫、コオロギ、ウマオイ、くつわ虫です。虫たちは、種類によっていろいろな鳴き方をしますが、本当は「鳴いている」のではなく、羽をこすって音を出しています。

これらの秋の虫たちは、そもそもなぜ、秋に音を出すのでしょうか。実は、羽をこすって音を出しているのはほとんどの種類でオスだけです。オスは、繁殖に適した秋になると、メスとの出会いを求めて優しい音を出します。また、時にはオス同士で縄張りを主張するために激しく羽を鳴らすこともあります。

日本では昔から虫のこえに耳を傾ける習慣があり、平安時代の貴族たちは、音を出す虫をカゴに入れて楽しみました。『枕草子』には「すずむし、松虫、きりぎりす（現在でいうコオロギ）、はたおり」などの音を出す虫が出てきます。また、『源氏物語』の「鈴虫の巻」にも、松虫を庭に放したり、鈴虫のこえを聞きながら宴を楽しんだりする様子が描かれています。

秋の夜長に、虫たちが奏でる演奏にしばし耳を傾け、風情を楽しんでみてはいかがでしょうか。



役場職員互助会で主催した東日本大震災ボランティアツアーに参加し、岩手県陸前高田市に行ってきました。被災地を実際に見て、心が痛む思いがしました。そしてまた、同時にまだまだボランティアの必要性を痛感しました。一日でも早い復興を祈りつつ、少しでも役に立ちたいと改めて心に誓いました。(1)

わがやのアイドル



ちゅうぜんじ 中善寺 みおちゃん
(1歳5か月)

何でも空き箱にしまうのが今のブーム。我が家の色んな物が行方不明に(笑)

みおの元気な笑い声にパパもママも思わずにっこり♡ もうすぐお姉ちゃんになります。どんなお姉ちゃんになるのかな？



けいすけ 坂口 慶将くん
(1歳8か月)

いたずらが大好きでとっても甘えん坊♪「にいにー！ ねえねー！」とお兄ちゃん、お姉ちゃんの後を一生懸命追いかけています。けいちゃん笑顔が皆を元気にしてくれるね！ すくすく大きくな〜れ♪

■ 秘書広報課では「わがやのアイドル」を募集中です。
申・問 役場秘書広報課 ☎(295) 2112 内線332

人口 36,364人 (-6人)
【男 18,106人 (+2人) 女 18,258人 (-8人)】
世帯 15,798戸 (-15戸)
※平成23年8月1日現在(カッコ)内は前月比